



令和5年5月23日

G7 広島サミットレガシーイベントとして
「認知症を考える ～共生社会とイノベーションを日本から～」
を5月28日に開催します

情報提供

広島大学は、日本医療政策機構（代表理事 黒川清先生）に協力して、霞キャンパス凌雲棟において、2023 G7 広島サミットレガシーイベント「認知症を考える ～共生社会とイノベーションを日本から～」を開催することとなりました。

認知症はグローバルレベルの政策課題とみなされており、日本でも2019年に国家レベルの計画として認知症施策推進大綱が策定されております。

G7 サミット開催を機に、広島にて、改めて市民社会・研究者・産業界・行政などのマルチステークホルダーが集い、高齢化最先進国と言われる日本から認知症について議論する場として本シンポジウムが企画されました。

最近特に注目が高まっている認知症の原因疾患に対する治療法や予防法の開発、それらのイノベーションを実装するための医療提供体制のこれからの姿について議論を深めます

認知症の人の数は2018年で500万人を超え、今後さらに増加すると見込まれております。認知症はだれもがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることなどを含め、多くの人にとって身近なものとなっています。認知症のこれからについて、ご参加の皆様一人一人に考えて頂く機会となれば幸いです。

記

【日時】5月28日（日）13:00～17:00

【会場】広島大学凌雲棟5階501号室（霞キャンパス）

【講演者】

パネルディスカッション 1 「日本の認知症国家戦略と国際社会への貢献～G7 を振り返って」

石井 伸弥（広島大学大学院医系科学研究科 共生社会医学講座 寄附講座教授）

鷲巢 典代（認知症の人と家族の会 理事）

和田 幸典（厚生労働省老健局 認知症施策・地域介護推進課 認知症総合戦略企画官）

モデレーター：栗田 駿一郎（日本医療政策機構 シニアマネージャー）

基調講演「認知症をめぐるイノベーションの現状と今後の展望」

岩坪 威（東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻 神経病理学分野 教授／日本認知症学会 理事長）

パネルディスカッション 2「認知症治療におけるイノベーションと今後の医療提供体制」

天野 純子（広島県医師会 常任理事）

栗田 主一（東京都健康長寿医療センター研究所 認知症未来社会創造センターセンター長）

井原 涼子（東京都健康長寿医療センター 脳神経内科 医長）

岩坪 威（東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻 神経病理学分野 教授／日本認知症学会 理事長）

川井 元晴（認知症の人と家族の会 理事・山口県支部代表世話人／脳神経筋センター よしみず病院 副院長）

モデレーター：石井 伸弥（広島大学大学院医系科学研究科 共生社会医学講座 寄附講座教授）

パネルディスカッション 3「認知症のリスク低減・早期発見とイノベーション」

貴島 晴彦（大阪大学大学院 医学系研究科脳神経外科 教授／日本正常圧水頭症学会 副理事長）

櫻井 孝（国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 研究所長）

橋本 泰輔（経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課長）

村上 敬子（認知症の人と家族の会 広島県支部世話人代表）

モデレーター：栗田 駿一郎（日本医療政策機構 シニアマネージャー）

【対象】

事前登録制となりますので、ご参加希望の方は、下記 URL もしくは二次元バーコードよりお申込みをお願いいたします。

<https://hgpi.org/events/dementia-20230528.html>



【お問い合わせ先】

大学院医系科学研究科 石井 伸弥

Tel：082-257-2018 FAX：082-257-2018

E-mail：sishii76@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 2枚（本票含む）

